

- 意見 1 : 昨今、学校職員の不適切な対応等の問題があるが、どのように対応しているか。
⇒全職員対象の研修の受講、職員会等で公務員の職務の周知、風通しのよい環境作り等、児童生徒が犠牲になることのないよう未然防止の対応をしている。
- 意見 2 : 校長が変わると学校の雰囲気も変わる。前年度のことも踏まえ、どのような学校にしたいと考えているか。
⇒学校教育目標「かけがえのない いのちの つながり」を大切にしていく。安全に留意しながら、コロナ禍前の外部の方々との行事を地域の方々の協力を得て再開させたい。小学部、中学部、高等部が一つの学校の中にあるので、それぞれの成長過程を踏まえつつ、縦のつながりを生かし12年間の見通しを持った教育活動を行っていききたい。
- 意見 3 : よりよい学校にするために変えた方がよいと思うことは、失敗を恐れず実行してほしい。それに対して意見や評価をする場として運営協議委員会がある。この場合は、地域の方々から多種多様な意見を聞くよい機会である。昨年、他校と合同で販売活動をしているのを拝見した。それぞれの学校の特色がでていた。
- 意見 4 : 自分の施設を利用している児童生徒の学校での様子を拝見することができた。学校での支援や活動等、取り入れていきたい。また、学校の延長上に施設があるという意識をもち、学校で経験したことを大切に、就労へ繋げていきたい。
- 意見 5 : 児童生徒、教員が大変明るい表情であったのでよい印象を受けた。忍耐強く対応しなければならぬことも多いが、継続して頑張ってもらいたい。
- 意見 6 : 児童生徒が主体的に動けるような支援や声掛けが素晴らしい。大人は失敗しないように先回りの支援をしがちだが、児童生徒が自ら動くまで待つという支援が大切である。自分が関わっていた児童生徒が成長し、言葉での指示理解ができている姿を見ることができた。同等の支援を地域の職員や保護者に伝えていきたい。
- 意見 7 : 学校、保護者、放課後等デイサービス、他機関等の連携が大切である。教員の指示や支援が的確であり、我が子の成長が感じられ、安心して学校に預けることができる。保護者はそれぞれ考え方の違いもあるが、お互いを認め交流ができるとよい。
- 意見 8 : 自分の立場は、地域を見守ると同時に、学校の様子を地域に発信することである。世間ではPTA活動について話題になっているが、学校と地域、保護者が繋がることが大事であり、PTAの役割の一つとして地域と繋がることを担ってほしい。
- 意見 9 : 6月にしては、全体的に落ち着いている。特に小学部の児童が午後からの体育を生き生きと行っていた。卒業後の施設で行っている作業で、学校で経験したことが役立っているという例があり、影響が大きいと考える。意思決定支援、自分の思いを言葉にして発表する等、ICTを活用し教育活動を行っている。校長からは、「生き生き」「楽しい」「つながり」のキーワードが多く聞かれ、どのように学校経営をしていきたいのかがよく分かった。18年間の間に児童生徒数はピーク時の半数となったが、培ったことを利用し、頑張っていってほしい。少人数というメリットもあるが、他校では増加傾向にある。今後、校区のこともあるが、児童生徒数減少に対してどうしていくのかを考えていかなければならない。

6 会議のまとめ

- ・第1回学校運営協議会では、本年度の本校の学校運営基本方針及び高等部作業製品販売価格について承認が得られた。
- ・授業参観の様子、学校運営等について、学校運営協議会委員より多くの意見を得た。この意見を参考に今後の学校運営の改善を図りたい。
- ・第2回学校運営協議会は令和7年11月6日(木)、第3回学校運営協議会は令和8年1月29日(木)を予定している。